

連携いいわい



救急外来をリニューアルしました

〈救急待合室〉



救急看護認定看護師 佐藤 加代子

救急外来では年間 12,412 名（平均 34 名／日・平成 27 年度）の診療を行っています。その中で入院を必要とする患者は 24.2%で、その比率は年々増加し検査や治療に時間を要しています。患者一人あたりの処置に要する時間が長くなればそれだけ次に待つ救急患者のベッド確保が難しくなってきます。

一関市の 65 歳以上人口が 33.7%であることから、受診患者には高齢者が多く、車椅子や歩行器、ストレ

ッチャーによる移動が必要となります。このような患者の変化に対応するには、今までの救急外来では導線が悪いうえ手狭であり移動時の安全確保、ベッド間のプライバシーの確保が厳しく、多くの緊急度や重症度の高い患者の受け入れが厳しい環境となっていました。

これらの問題を解決するために、2017 年 2 月にリニューアルした救急外来は、オープンフロアでスタッフが診療状況を把握しやすく、処置や移動に十分なスペースの確保、ベッド間のプライバシー確保が可能な仕切りを設置しました。さらに、重症疾患の処置を行うため麻酔器や外傷処置器材を配置した重症処置室を 1 室増設しました。救急専用のシャワースペースも確保し外傷創部処置や化学物質による事故対応も可能となりました。一番の改修は薄暗く寒い廊下の一部を待合としていたところを、救急待合室として整備し暖かい環境でお待ちいただけるようになりました。さらに、トリアージ室を設置し院内トリアージの充実も図ることができました。

二次救急医療施設として入院を必要とする患者や、緊急度が高く早急な処置を必要とする患者とその家族が安全に待てる環境、疾患に応じた処置が可能となる環境を整備しました。しかし、スタッフ数は従来と同じため収容できる患者数は変わらないことをご理解いただき、今後ともご協力を宜しくお願いいたします。

〈重症処置室〉



〈急患室〉



【目次】

- ・ 1 ページ…救急外来をリニューアルしました
- ・ 2 ページ…地域連携パス検討会について、当院におけるインシデント報告数
- ・ 3 ページ…平成 28 年度どこでも医療講座の実績
- ・ 4 ページ…今年度の紹介率・逆紹介率の状況(H28.4～H29.2)、救急患者の推移 (H28.4～H29.2)

編集後記

両髻地域で運用している、大腿骨頸部骨折地域連携パス（以下、大腿骨パス）、脳卒中地域連携パス（以下、脳卒中パス）についてご紹介いたします。

大腿骨パスは、急性期を髻井病院が、回復期を市内6病院が担い、維持期・施設へつなぐ形で運用しており、今年度の適用件数は63件（2月末時点）となっており順調に件数を伸ばしております。

脳卒中パスは、急性期を髻井病院と昭和病院、回復期を市内4病院が担い、維持期・施設へつないでいっており、今年度の適用件数は6件（2月末時点）となっており、適用件数・連携医療機関を増やしていくことが課題となっております。

また、連携医療機関が年3回集まり地域連携パス検討会を開催し、情報の共有やパス用紙の改訂、事例の検討を行っています。写真は先日開催されました検討会の様子です。どちらの検討会も地域連携パスを通じたより良い地域連携を目指して議論を行っています。

各医療機関のみなさまには両髻地域大腿骨頸部骨折地域連携パス、両髻地域脳卒中地域連携パスのスムーズな運用にご協力いただき感謝申し上げますと共に、今後の更なる活用に関しまして、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【検討会の様子（右：大腿骨、左：脳卒中）】



当院におけるインシデント報告数

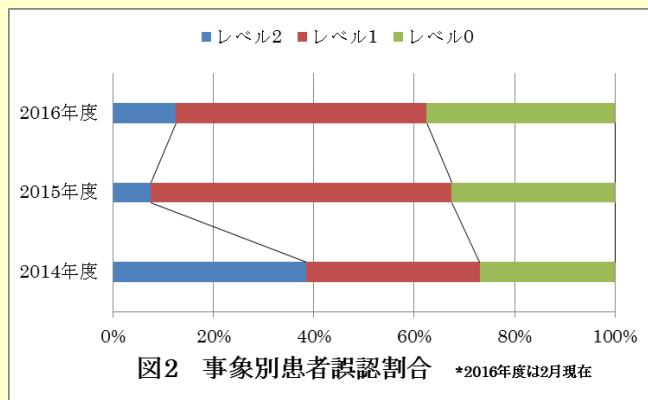
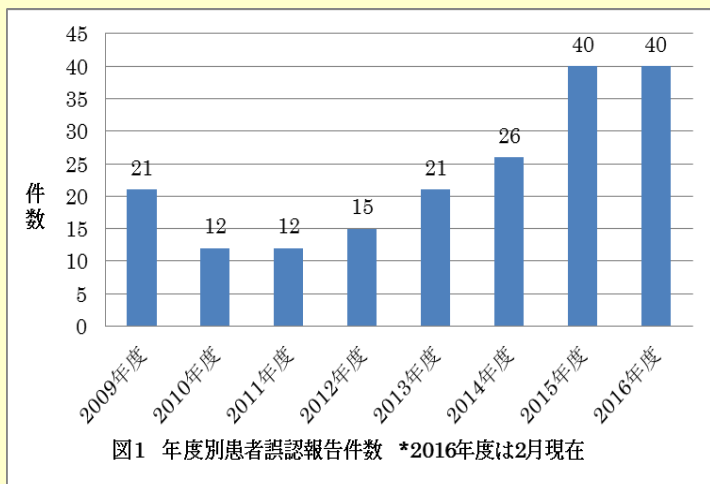
医療安全管理専門員 須田 佳与

当院における患者誤認に関するインシデント報告数は、2010年度から増加傾向にあり、2015年度には年間40件の報告数まで増加しています。そのうち約半数が外来部門で発生しています。

外来部門は時間に追われる業務の性質上、患者確認エラーが生じやすい環境です。そこで、あらかじめ患者協力をお願いする院内表示や、外来基本票の患者確認チェックの実施、安全ラウンド、発見レベルでのインシデント報告を促し早期に介入することで、患者への影響度の高い事象レベルが4割から1割に減少し、現在では発見レポートが全体の約4割まで増加しています。

また、内視鏡部門では侵襲を伴う検査・処置の場面でサインイン・タイムアウト・サインアウトを実施し、患者誤認防止と多職種の情報共有により確認エラーは減少しています。

今後において“意識に残らない流れ作業”とならないようヒューマンエラーの特性を踏まえた職員教育や定期的な振り返りなど、誤認防止の取り組みを継続して実施していきます。



レベル0：間違ったことが患者に実施される前に気づいた場合

レベル1：間違ったことが実施されたが、患者には変化がなかった場合

レベル2：事故により患者に変化が生じ、一時的な観察が必要となったり、安全確認のために検査が必要となったが、治療の必要がなかった場合

平成 28 年度どこでも医療講座の実績

今年度のどこでも医療講座は、合計 10 回開催しました。今年度も多くの講座を開催することができました。

今年度は、高橋幹夫臨床検査技師長の「感染症予防について」、佐藤加代子救急看護認定看護師の「こんな時どうする？応急処置を知ろう」の 2 題が特に人気でした。

当院の『どこでも医療講座』は、地域住民の希望に応じて、当院の担当職員を講師として派遣し、講座を開催するものです。当院の職員持つ、専門分野の知識を広く周知することで、地域住民の保健・医療・福祉に対する意識や知識の向上に寄与することが目的です。来年度も今年度同様に活動していきます。



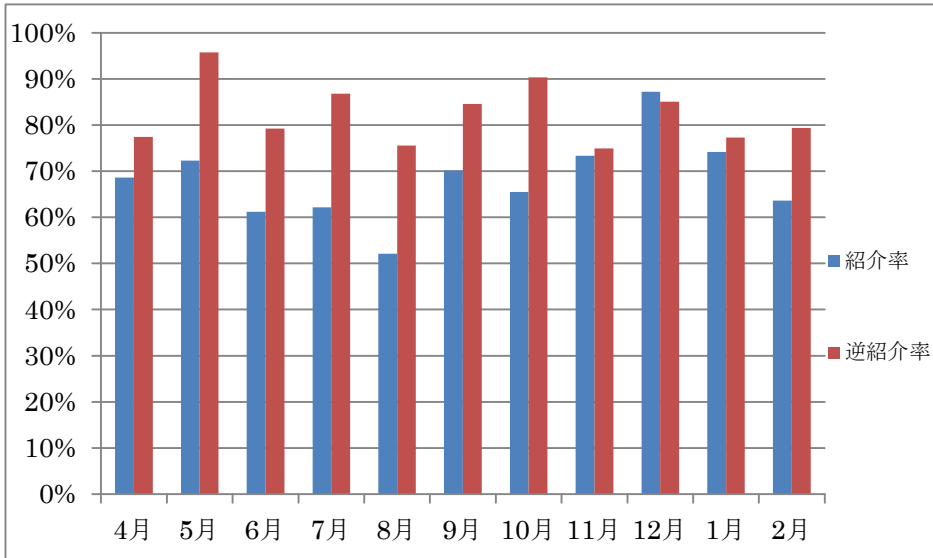
実施日	団体・組織名	会場	演題	演者
5/12	一関保健センター 健康づくり課	一関保健センター	糖尿病について	糖尿病認定看護師 大谷 明子
6/5	一関市油島市民センター	一関市油島市民センター	①こんなときどうする？ 応急処置を知ろう ②手洗い教室	①救急看護認定看護師 佐藤加代子 ②感染管理認定看護師 佐京 里美
10/5	一関地区保育協議会 保健衛生分科会	一関保健センター	乳幼児アレルギー、皮膚 トラブルについて	新生児ケア認定看護師 四垂 真弓
10/24	(株)富士通ゼネラルエ レクトロニクス	社内会議室	①インフルエンザなどの 感染症予防 ②検査データの見方・解 釈を説明します	臨床検査技師長 高橋 幹夫
10/25	一関地区保育協会主任分 科会	一関保健センター	①感染症予防について ②最近の予防接種につい て	臨床検査技師長 高橋 幹夫
11/5	幸町保育園	幸町保育園	①感染症予防について ②おくすりの正しい使い 方について	①臨床検査技師長 高橋 幹夫 ②薬剤科 大柏 芳彰
11/10	一関保健センター健康づ くり課	一関保健センター	感染症予防について	臨床検査技師長 高橋 幹夫
11/14	高梨悠々サロン (萩荘高梨地区介護予防 教室)	高梨公民館	こんな時どうする？応急 処置を知ろう	救急看護認定看護師 佐藤 加代子
1/17	一関地区保育協議会健康 分科会	一関保健センター	①乳幼児アレルギー、皮 膚トラブルについて ②こんな時どうする？応 急処置を知ろう	①新生児ケア認定看護師 四垂 真弓 ②救急看護認定看護師 佐藤 加代子
2/6	一関市子育て支援課母子 健康係	一関保健センター	退院後の母乳育児につい て	主任看護師兼主任助産師 菅原 純子

今年度の紹介率・逆紹介率の状況（H28年4月～H29年2月）

当院は、平成25年10月に地域医療支援病院の指定を受けており、地域の中核病院として各医療機関との間で、適切名役割分担と連携を図っていくことが求められています。紹介率・逆紹介率は、その連携状況を測る指標となっています。

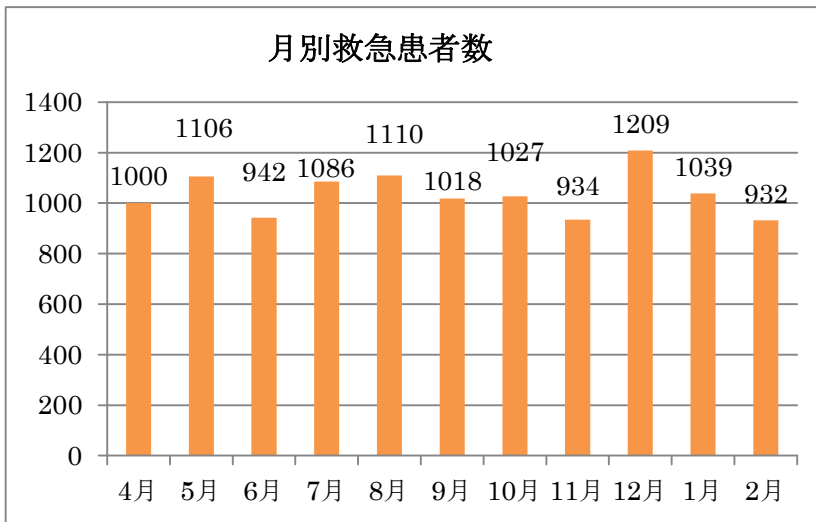
〈承認要件〉※①～③のいずれかを満たすこと

- ①紹介率80%を上回っていること（紹介率60%以上であって、承認後2年間で当該紹介率が80%を達成することが見込まれる場合を含む。）
- ②紹介率が60%を超え、かつ、逆紹介率が30%を超えること。
- ③紹介率が40%を超え、かつ、逆紹介率が60%を超えること。



	紹介率	逆紹介率
4月	68.61%	77.44%
5月	72.32%	95.76%
6月	61.23%	79.27%
7月	62.21%	86.81%
8月	52.11%	75.59%
9月	70.14%	84.63%
10月	73.36%	74.96%
11月	87.23%	85.11%
12月	74.17%	77.30%
1月	63.65%	79.42%
2月		

救急患者数の推移（H28年4月～H29年2月）



今年度の月別救急患者数のグラフです。

5月・8月はそれぞれゴールデンウィーク・お盆期間の連休のため、また夏季の熱中症や虫刺傷、冬季にはインフルエンザ・ノロウィルスの流行や積雪に伴う転倒など、季節的な要因によっても救急受診が多くなる傾向があります。

磐井病院では、平均して毎月1000人前後の救急患者（うち救急車の台数は毎月約200件程度）を受け入れています。軽傷の方もまだまだ多い状況です。患者様の適正受診にご協力をお願いいたします。

編集後記

月日が経つのは早いもので、気がつけば今年度も残すところわずかとなりました。この時期はあわただしく、ゆっくりと今年度を振り返ることがなかなかできずにいます。皆さまの1年は、いかがだったでしょうか。

当院の医療機関向け広報誌「連携いわい」は、今号で15号目となりました。今年度4号目でもあり、例年よりも多くの情報をお届けすることができたと感じております。来年度も、定期的な発行を目指し、当院の情報を提供してきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

【編集・発行】

平成29年3月発行 第15号

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室

〒029-0131 岩手県一関市狐禅寺字大平17

電話(0191)-23-3452 連携室直通 Fax (0191)-21-3990